

## 付属資料 業務指標

### 「業務指標」とは…

平成17年1月に社団法人日本水道協会が制定した水道事業ガイドラインJWWA Q100によって、水道事業全般を定量化した国内規格の共通指標です。

〈優位性〉 ↑高い方が望ましい ↓低い方が望ましい ーいずれとも示せない  
 〈評価〉 算定した指標と全国平均値等を比較した結果、次の記号で評価を表しています。

- 良い又は高い推移を示す項目 ▲ 改善等の対応が望まれる項目
- ◆ 指標の値だけでは評価が難しい項目

※137項目の業務指標のうちから抜粋して掲載しています。

### 【安心】すべての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給

#### ■水資源の保全

指標番号	業務指標の定義	優位性	H18	H19	H20	評価
1003	原水有効利用率 (%)	↑	92.2	94.6	94.3	●
1004	自己保有水源率 (%)	↑	91.4	91.4	91.4	●

#### 1003 原水有効利用率

水源から取水した原水をどの程度有効に利用しているかを表しています。値が100%に近いほど、原水を有効に利用していることとなります。

#### 1004 自己保有水源率

自己で保有する水源の割合を表しています。値が100%に近いほど、自由度が高いこととなります。

#### ■水源から給水栓までの水質管理

指標番号	業務指標の定義	優位性	H18	H19	H20	評価
1102	水質検査箇所密度 (箇所/100km <sup>2</sup> )	↑	17.9	17.9	16.4	●
1117	鉛製給水管率 (%)	↓	22.1	20.9	19.6	▲

#### 1102 水質検査箇所密度

給水区域100km<sup>2</sup>当たりの毎日水質検査を行っている箇所数を示しています。

### 1117 鉛製給水管率

給水件数に占める鉛製給水管の使用件数の割合を示しています。

## 【安定】いつでもどこでも安定的に生活用水を確保

### ■連続した水道水の供給

指標番号	業務指標の定義	優位性	H18	H19	H20	評価
2001	給水人口一人当たり 貯留飲料水量 (ℓ/人)	↑	108	107	130	▲
2002	給水人口一人当たり 配水量 (ℓ/日/人)	↓	452	438	442	▲
2004	配水池貯留能力 (日)	↑	0.48	0.49	0.59	▲
2006	普及率 (%)	↑	99.2	99.2	99.4	●
2007	配水管延長密度 (km/km <sup>2</sup> )	↑	12.2	12.3	12.5	●

#### 2001 給水人口一人当たり貯留飲料水量

配水池等に貯められている給水人口一人当たりの貯留水量を示しています。

#### 2002 給水人口一人当たり配水量

給水区域内の給水人口一人一日当たりの水の消費量を示しています。

#### 2004 配水池貯留能力

何日分の配水量が配水池等で貯留可能であるかを、平均的な配水量を使って示しています。

#### 2006 普及率

給水区域内に居住する人のうち給水を受けている人の割合を示しています。値が大きいほど水道が普及していることを示します。

#### 2007 配水管延長密度

給水区域 1km<sup>2</sup> 当たりの配水管の長さを示しています。一般にこの指標値が大きいほど利用者からの給水申し込みがあったときに接続・給水が容易であるといえます。

## ■将来への備え

指標番号	業務指標の定義	優位性	H18	H19	H20	評価
2103	経年化管路率 (%)	↓	2.3	2.0	1.7	●
2104	管路の更新率 (%)	↑	1.07	1.48	0.94	▲
2107	管路の新設率 (%)	—	1.15	0.68	1.14	◆

### 2103 経年化管路率

給水区域に布設されたすべての管路のうち、耐用年数（40年）を経過した管の占める割合を示しています。

### 2104 管路の更新率

年間に更新された導・送・配水管の割合を示しています。

### 2107 管路の新設率

1年間で新たに布設した管路の割合を示しています。管の整備が進むほどこの割合は小さくなります。

## ■リスクの管理

指標番号	業務指標の定義	優位性	H18	H19	H20	評価
2209	配水池耐震施設率 (%)	↑	56.9	56.9	64.4	●
2213	給水車保有度 (台/千人)	↑	0.03	0.03	0.03	●

### 2209 配水池耐震施設率

全配水池容量に対する耐震化した配水池の容量の割合を示しています。数値が大きいほど地震に強く安定性が高いといえます。

### 2213 給水車保有度

給水人口千人に対して給水車を何台保有しているかを示しています。

【持続】いつでも安心できる水を安定して供給

■地域特性にあった運営基盤の強化

指標番号	業務指標の定義	優位性	H18	H19	H20	評価
3001	営業収支比率 (%)	↑	124.6	124.9	120.5	●
3002	経常収支比率 (%)	↑	111.4	112.4	110.9	●
3004	累積欠損金比率 (%)	↓	0.0	0.0	0.0	●
3007	職員一人当たり給水収益 (千円/人)	↑	102,069	104,689	105,733	●
3008	給水収益に対する 職員給与費の割合 (%)	↓	8.5	7.8	7.5	●
3009	給水収益に対する 企業債利息の割合 (%)	↓	11.0	10.6	9.1	●
3012	給水収益に対する 企業債残高の割合 (%)	↓	274.1	272.6	274.0	●
3013	料金回収率 (%)	↑	109.2	109.9	108.1	●
3014	供給単価 (円/m <sup>3</sup> )	↓	115.7	113.7	110.3	●
3015	給水原価 (円/m <sup>3</sup> )	↓	106.0	103.5	102.0	●
3016	一箇月当たり家庭用料金 (口径 13mm・10m <sup>3</sup> ・円)	↓	777	714	714	●
3017	一箇月当たり家庭用料金 (口径 13mm・20m <sup>3</sup> ・円)	↓	1,806	1,701	1,701	●
3019	施設利用率 (%)	↑	64.8	63.0	63.3	▲
3020	施設最大稼働率 (%)	↑	76.6	73.9	74.2	●
3021	負荷率 (%)	↑	84.5	85.3	85.4	▲
3023	自己資本構成比率 (%)	↑	63.7	66.5	67.6	●

3001 営業収支比率

営業収益を得るために要した費用に対する割合を示しています。100%以上であることが必要で、下回ると営業損失を生じていることを示します。

3002 経常収支比率

経常収益の経常費用に対する割合を示します。100%以上であることが必要で、下回ると経常損失を生じていることを示します。

#### 3004 累積欠損金比率

累積欠損金の営業収益に対する割合を示しています。累積欠損金とは、営業活動の結果生じた欠損金が当該年度で処理できずに、複数年度にわたって累積したものです。値は0%であることが必要です。

#### 3007 職員一人当たり給水収益

職員一人当たりの給水収益を示しています。数値が高いほど職員一人当たりの生産性が高いことを示します。

#### 3008 給水収益に対する職員給与費の割合

職員給与費の料金収入に対する割合を示しています。数値が低いほど給水収益に占める職員給与費の割合が低く、財務安全性が高いことを示します。

#### 3009 給水収益に対する企業債利息の割合

企業債利息の給水収益に対する割合を示しています。数値が低いほど給水収益に占める企業債利息の割合が低く、財務安全性が高いことを表します。

#### 3012 給水収益に対する企業債残高の割合

企業債残高の給水収益に対する割合を示します。数値が低いほど給水収益に占める企業債残高の割合が低く、一般的には経営状況がよいとされています。

#### 3013 料金回収率

給水にかかる費用のうち料金収入で回収する割合を示しています。100%を下回っている場合は、給水にかかる費用が料金収入で賄えていないことを示します。

#### 3014 供給単価

有収水量 1 m<sup>3</sup> 当たりについて、どれだけ収益を得ているかを示しています。水道料金の平均単価です。

#### 3015 給水原価

有収水量 1 m<sup>3</sup> 当たりについて、どれだけ費用がかかっているかを示しています。

#### 3016 一箇月当たり家庭用料金 (10 m<sup>3</sup>)

一箇月当たりの一般家庭用の基本料金+10 m<sup>3</sup> 使用時の従量料金

#### 3017 一箇月当たり家庭用料金 (20 m<sup>3</sup>)

一箇月当たりの一般家庭用の基本料金+20 m<sup>3</sup> 使用時の従量料金

#### 3019 施設利用率

施設の能力をどの程度平均的に利用しているかを示しています。値が大きいほど効率的に施設を利用していることを示しますが、一方で大きすぎる場合は予備的な能力が不足していることを示します。

### 3020 施設最大稼働率

一年間で最も給水した日の給水量が施設の能力のどの程度に当たるかを示しています。値が大きいほど効率的に施設を利用していることを示しますが、一方で大きすぎる場合は予備的な能力が不足していることを示します。

### 3021 負荷率

施設が年間を通して有効に利用されているかどうかを見る指標です。一年間の需要の変動が大きい場合は指標値が大きくなり、効率が悪くなっていること示します。

### 3023 自己資本構成比率

自己調達した資本の割合を示し、値が高いほど健全な財政状態といえます。

## ■水道文化・技術の継承と発展

指標番号	業務指標の定義	優位性	H18	H19	H20	評価
3103	外部研修時間（時間）	↑	12.4	18.3	15.0	●
3104	内部研修時間（時間）	↑	13.3	18.4	13.1	▲
3105	技術職員率（%）	—	57.1	61.1	57.1	◆
3106	水道業務経験年数度（年/人）	—	6.3	6.9	6.6	◆
3109	職員一人当たり配水量（m <sup>3</sup> /人）	↑	671,000	636,000	654,000	●

### 3103 外部研修時間

職員一人当たりの年間の外部研修受講時間数を示し、数値が大きいほど職員が多くの外部研修を受講していることとなります。

### 3104 内部研修時間

職員一人当たりの年間の内部研修受講時間数を示し、数値が大きいほど職員が多くの内部研修を受講していることとなります。

### 3105 技術職員率

全職員に占める技術職員数の割合を示しています。

### 3106 水道業務経験年数度

職員一人当たりの水道業務経験年数を示しています。人的資源としての専門技術の蓄積を示します。

### 3109 職員一人当たり配水量

職員に関する事業の効率性を示しています。数値が高い方が事業効率がよいといえます。

【環境】環境保全への貢献

■地球温暖化防止、環境保全などの推進

指標番号	業務指標の定義	優位性	H18	H19	H20	評価
4001	配水量 1m <sup>3</sup> 当たり 電力消費量 (kWh/m <sup>3</sup> )	↓	0.29	0.29	0.28	●
4002	配水量 1m <sup>3</sup> 当たり 消費エネルギー (MJ/m <sup>3</sup> )	↓	1.06	1.06	1.02	●

4001 配水量 1m<sup>3</sup> 当たり電力消費量

取水から給水栓まで 1m<sup>3</sup> の水を送るまでに要した電力消費量を示しています。

4002 配水量 1m<sup>3</sup> 当たり消費エネルギー

取水から給水栓まで 1m<sup>3</sup> の水を送るまでに要したエネルギー量を示しています。